

## ついで性と空名の意味

木田翔一 (Shoichi KIDA)

千葉大学

空名とは、現実における指示対象を欠いているように思われる名前である。虚構的な内容を描く小説には、そうした空名を含む文が多数用いられている。そして、少なくとも数人の哲学者たちが、そうした文を有意味であるか少なくとも理解可能であると考え、空名のもつ「ついで性 (aboutness)」と意味について考察してきた。

空名を含む文が有意味であるならば、空名が何かを表しており、空名を含む文はその何かについて有意味なことを語っている文であると考えるのは自然なことである。その何かとは例えば、何らかの非存在対象 (マイノング主義または非存在主義) であったり、存在する抽象的対象 (実在論) であったりする。また、虚構において真と見なされる空名を含む文は真正にその真理を主張しているのではなく、主張する「ふり」あるいは「ごっこ遊び」をしていると見なすことによって、そうした文は理解可能であると考えられる立場 (虚構主義) もある。

しかし、これらの立場はいずれも、固有の説明的な難点を抱えていると思われる。マイノング主義には非存在対象の存在論が直観的に理解し難いという困難そして虚構についての語りと現実についての語りを同じ一つの対象を用いて統一的に語らなければならないという困難がある。実在論には否定存在言明の真理の説明の困難そして虚構のキャラクターが何であるかに関する混乱 (具体的対象と抽象的対象の混乱) がある。虚構主義には虚構のキャラクターについて現実を交えた語りをする際それがふりであるとは思われないという困難がある。

本発表の目的は上記の諸理論によって採用されている「ついで性」の概念理解と空名の意味論に対する、よりよい代案をもつ理論を提出することにある。

それは、スティーブン・ヤブローの「ついで性」の考え方と、「虚構空間」の考え方を統合した、虚構主義の一バージョンである。

ヤブローは著書 *Aboutness*. (Yablo 2014) において、デイヴィッド・ルイスが考案した文の主題についてのアイデアを発展させた見解を提出している。ヤブローによると、世界  $w$  においてある文  $A$  が主題  $m$  について真であるのは、 $A$  が  $w$  に対して  $m$  に関して同値である世界において真であるときかつそのときのみに限る。ヤブローは上記の主張を含む一連の主題についての見解によって、ある文の内容が「部分的に真」であるとはどのようなことを明晰に説明している。例えば「惑星の数は 8 である」という文は、抽象的対象である数 8 の存在を認めないとしても、具体的な物理的世界の在り方に関して部分的に真であると考えることができる。このアイデアを用いれば、文は単に真であるか偽であるかのどちらかであるのではなく、様々な文脈に応じて様々な仕方で (部分的に) 真ないし偽であるという事実を説明できる。

そして「虚構空間」とは、それが存在するかしないかにかかわらず、あらゆる思考の対象の集まりを思考空間としたとき、虚構であるという性質をもつ思考の対象の集まりのことである。虚構空間における虚構的对象は、虚構世界において存在する。しかし、現実には存在しないし、また端的に実在しない。思考の対象の領域を存在しないものにまで拡張するアイデアは、ティム・クレインの見解や非存在主義の立場においてもお馴染みのものである。だが、私の考えでは、現実存在する対象と虚構的对象が同じ名前で表されるとしても、それらが同じ対象であるということにはならない。また、虚構作品で描写されたキャラクターを特徴づける性質を満たす対象が現実存在するとしても、それが現実において当のキャラクターになるわけではない。虚構的对象は本質的に虚構的なのである。

本発表において提出する虚構主義のこのバージョンは、少なくとも次のような説明的な特徴をもつと考えられる。

- (1) 文 A は、異なる主題  $m$  と  $n$  に関して、それぞれ異なる部分的な真理をもちうる。
- (2) 虚構的对象の導入により、空名を含む文は虚構世界について語るものとなり、虚構世界の在り方に対して真理値をもつことになる。
- (3) 人々がホームズという虚構的对象について思考しているという事実は、存在しない抽象的对象についてではなく、具体的な現実世界の事実についての部分的な真理として説明されうる。
- (4) 文「ホームズは存在しない」は現実については真であり、ホームズが存在する虚構世界については偽であるものとして、否定存在言明の真理値を直観的に説明できる。
- (5) 現実世界と虚構世界において、同じ名前で名指される対象が同じ性質をもつように述語づけられたとしても、それぞれの文は異なる主題についてのものであり、それらが真あるいは偽である仕方は異なると見なすことができる。

以上の特徴が他の理論に対して空名の「ついて性」と意味に関する説明的な利点となることを示したい。

参考文献

Yablo, S. (2014). *Aboutness*. Princeton University Press.